

## 令和6年能登半島地震で被災されたみなさまへ

元日の夕刻、平和なひとときを過ごしていた時間帯、能登半島では突然に大地震に襲われました。マグニチュード7.6は阪神淡路大震災・熊本地震より大きい規模で、たいへんな被害が推測されましたが、被害の全容はなかなか見えてきませんでした。少しずつ事態が明らかになると、道路が寸断され、電気が届かない孤立した集落が数多くあることが判明してきました。連絡の取れない方が大勢いらっしゃるものの、すぐには救助・救援ができず、多くの時間を要してしまったことは残念なことでした。亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、ご家族の皆さまにはお悔やみを申し上げますとともに、家屋が倒壊・焼失してしまったため、いまだ体育館などの避難所、遠方の施設、壊れたご自宅、農業用ハウス等でお過ごしの大勢の方々に心よりお見舞い申し上げます。

震災後の対応としては、まずは人の救出、行方不明者の捜索、避難所等で生活される方の支援が先ですので、棚田の復興は後回しが当然で、また情報も殆ど入ってきません。しかし、孤立した集落には棚田や段畑があり、崩れた箇所も多いと思われます。世界農業遺産認定でたいへんすぐれた景観を有する白米千枚田も、映像を見ると、田面は割れ、法面は崩れ、作業道の舗装も割れ、この春からの作付は全く考えられない状況です。

行政の側でも、復旧・復興の予算を用意し、棚田、段畑、平場の農地、農業施設等の復旧に取りかかると聞きます。これまで営々と受け継がれてきた棚田・段畑が一刻も早く復旧するよう、また耕作されていた皆さま・お住まいの皆さまがこれまでの生活を取り戻し、安心して営農に取り組める日が一刻も早く訪れることを祈念いたします。

2024年2月3日

棚田学会一同